



日本脳血管・認知症学会発足のご挨拶

Vas-Cog Japan

理事長 阿部康二



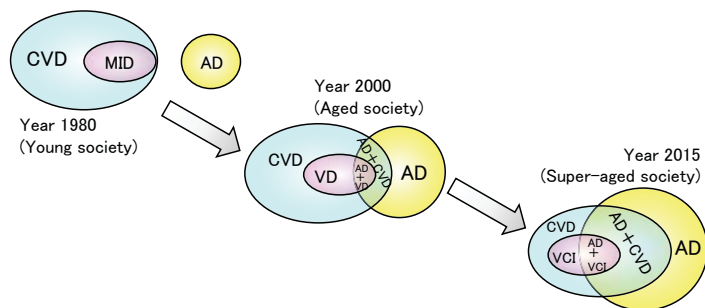
日本を含む世界の先進各国では人口の高齢化に伴い認知症の患者数が増加し、認知症患者の急激な増加は、医学的見地のみならず社会経済学見地からも大きな問題となっています。この現象は発展途上国においても同様に早晚噴出する問題と考えられています。このような認知症の中心的疾患であるアルツハイマー病に関する研究は、急速な進歩を遂げつつあり、レビー小体型認知症やパーキンソン病関連認知症、前頭側頭型認知症などの病態や治療法も次々に解明されつつあります。

一方、近年の疫学研究によって、高血圧や高脂血症（脂質異常症）、糖尿病などの生活習慣病は、血管性認知症に加えて、アルツハイマー病の重要な危険因子でもあることが明らかになりました。さらに高齢者においては脳血管病変とアルツハイマー病の病理が共存することが普遍的でさえあることが明らかにされ、新たな視点からの研究が始まりました（下図）。また CAA (cerebral amyloid angiopathy) も高齢化に伴って急増しており、このための脳イメージング診断技

術の進展も著しいものがあります。超高齢化社会を迎えた現代日本にあって、この極めて重要な「血管と認知症の関係」について、従来分類のような単なる血管性認知症という観点を超えた新しい幅広い視点から臨床的・基礎的研究を進めることが求められています。

このような新しい学術的社会的要請に応じて、血管の機能的・器質的障害と認知症発症との深い関連について研究解明し、新しい診断法や新しい治療法の開発に発展させていくことで、日本を始めとした人類全体の健やかな高齢化社会の維持発展に資することを目標として本学会が新たに設立されました。本会は既に 2010 年から研究会として発足し、2014 年までに 5 回の研究会を経て少しずつ発展して参りました。この分野は今後ますます発展することが期待されており、皆様方の積極的なご参加をお待ちしています。

2014 年 10 月 1 日



With society ageing, AD increases and becomes more related to vascular abnormality.

VAS-COG JAPAN 2014 報告

三重大学大学院医学研究科・神経病態内科学
富本秀和

VAS-COG JAPAN 2014 は平成 26 年 8 月 23 日、京都駅前メルパルク京都を会場にして開催されました。5 回目を迎えた歴史の中で、今回初めて東京以外の地で研究会を開催する運びになりました。会長は京都府立医科大学神経内科の水野敏樹教授と小生で、37 題の一般演題に加えて特別講演、シンポジウム、教育講演その他と盛りだくさんの内容があり、活発な議論で盛り上がりました。京都は長い歴史はもちろんです。が、“まったり”と流れる時間の中でサイエンスを楽しむ風土があります。例年、8 月の京都は炎暑に悩まされることが多いのですが、当日は幸いなことに小雨混じりの曇天で比較的過ごしやすい天候に恵まれました。

前日夕、隣接するホテルグランビア京都でイェーテボリ大学精神科の Wallin A 先生から、MCI に関するプレコングレスセミナーがありました。23 日午前中は一般口演、ポスター発表があり、午後のシンポジウムでは「血管性認知症をいかに診断するか」をテーマに、血管性認知障害 (VCI)、皮質下血管性認知症、遺伝性血管性認知症 CADASIL, CARASIL の診断基準の紹介があり、現状とその問題点に関して活発な意見交換がありました。本研究会の対象とする血管性認知症はアルツハイマー病との境

界が不明瞭なこともあり、最近では VCI として包括的に取り扱われる機会も増えていきます。一方、アルツハイマー病のほうから見ても、発症に血管因子の関与が指摘されるようになっており、両疾患の距離はかなり狭まってきたようです。

招請特別講演では Wallin A 先生から血管性認知症のバイオマーカーについてご講演戴きました。近年、認知症早期診断の重要性が取りざたされていますが、血管性認知症の最も信頼にたる指標は今でも血液脳関門 (BBB) 障害による髄液アルブミンの漏出であり、先生はそのパイオニアです。引き続き、特別講演として日本認知症学会理事長の森啓先生から DIAN, A4 研究など最新のアルツハイマー病研究についてご紹介がありました。例年に倣って若手研究者の励みとなるよう Young Investigator's award の選考があり、最優秀賞 1 題ほか奨励賞 2 題が選考されました。また、懇親会では VasCog-J 理事長の阿部康二教授から東京開催の国際学会について日程などの紹介がありました。関係各位のご尽力のお蔭で来年の VasCog world 2015 ならびに合同開催となる VasCog-J 2015 に向けて、実りある研究会になったように思います。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

VAS-COG Japan 2014 印象記

京都府立医科大学医学研究科神経内科学
水野敏樹

第5回 VAS-COG Japan 2014 を三重大学医学研究科 富本秀和教授とメルパルク京都で2014年8月23日に共催させて頂きました。これまでの過去4回の研究会はいずれも東京での開催でしたので、京都での開催を皆さんから期待して頂きましたが、一つ心配がありました。東京に比べても8月の京都の蒸し暑さは例年相当なもので、季節が良ければ京都の良さをアピールできるものの、8月中旬では本当に皆さんに来て頂けるかという心配でした。幸い例年に比べると今年の京都の夏はやや蒸し暑さはましで、最終的に121人の参加者があり盛会に終わることができました。私が京都府立医科大学、富本先生も京都大学出身ということで、関西の血管性認知症に興味をもって頂いている先生方に新たに参加して頂けたかと思えます。

今回はシンポジウムに採り上げた“血管性認知症をいかに診断するか”をテーマとし、症候学・生化学・画像・血流・脳血液関門などの視点からもう一度血管性認知症を考え直すことを意図しておりました。会場を2レーンで行いましたので、私自身全てには参加できませんでしたが、それぞれの先生方から貴重な講演を頂けたと思えます。症候学の面からはランチョンセミナーで川畑信也先生から認知症患者でみられる

不可解な症状を認知心理学的背景から考察して頂き、イーブニングセミナーでは目黒謙一先生から地域に埋もれやすい皮質下性血管性認知症の問題、遂行機能障害の背景となる要因、リハビリテーションのEBMをどのように示すかを具体的にお話頂きました。また特別講演として Wallin 先生から髄液からみた血管性認知症の特徴をお話頂きました。シンポジウムでは血管性認知症の診断基準、特に現在問題となっているアルツハイマー型認知症と血管性認知症の合併した混合性認知症の扱いについて多くの時間を割いて議論を行いました。合わせて遺伝性脳小血管病CADASIL, CARASILの診断についても議論し、参加者の一定のコンセンサスが得られたのではないかと思います。午前中の一般演題発表およびポスター発表では若手の先生からレベルが高い内容の発表を頂き、今後の学会として発展するための大きな力となることを予感しました。

最後に場所を移してホテルグランヴィア京都では三重の松坂牛に人気が集まり、皆さんに舌鼓を打って頂けたかと思えます。今回の研究会が来年東京で開催予定のVAS-COG worldに向けて、多くの研究者の参加を得て、ますますこの分野の研究が進展することの一助になればと願っています。

Vas-COG JAPAN 世話人会報告

大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学
森下 竜一

日本 VAS-COG 研究会 第6回世話人会が、2014年8月23日(土)メルパルク京都(6階会議室6)に於いて世話人16名が参加し開催されました。議題としては、「今後の開催予定」「学会化へ向けての準備」「専任事務局の委託」が討議され以下が報告及び承認されました。

【今後の開催予定】

第6回学会(2015年)

当番理事：川畑信也先生、山口修平先生

2015年9月19日(土)東京ファッションタウン(Vas-Cog Worldの隣会場で並行開催)

第7回学会(2016年)

当番理事：堀内正嗣先生、山田正仁先生

第8回学会(2017年)

当番理事：内山真一郎先生、小室一成先生

第9回学会(2018年)

当番理事：浦上克哉先生、松原悦朗先生

第10回学会(2019年)

当番理事：秋下雅弘先生、池田佳生先生

松原悦朗先生、秋下雅弘先生、池田佳生先生の当番世話人が承認された(これ以後は一人会長制の予定)

【国際学会】

①Vas-Cog World 2015 :

代表者長田乾先生・阿部康二先生

2015年9月17-19日(木~土)

東京ファッションタウンで開催

会議開催組織と今後の協力について説明があった。特別顧問として、本領域への貢献

度から森啓本会顧問と中島健二先生(京都府立医科大学名誉教授)、宮川太平(元熊本大学精神科教授)が推薦された。

②Vas-Cog Asia 4 (APSC2015)

2015年10月2日(金)

マレーシア国クアラルンプール市で開催と決定

【会費について】

現行の年会費2,000円は2015年3月31日までとし、同年4月1日以降は5,000円に値上げすることが承認された。

【学会化へ向けて】

日本学術会議認定の学会申請の要件：学術研究向上目的、研究者自身による会費運営、会員100人以上、機関誌発行継続年1回以上(電子発行含む、抄録集は不可)をクリアする作業を本格化しつつ、学術会議申請前でもこれまでの研究会から今後は学会を呼称(自称は可能)することになった。学会化促進委員長の浦上克哉先生から上記要件の推進について説明があった。

会員増加・広報委員長の羽生春夫先生から会員現状に鑑み、会員数増加と年会費納入のお願いがあった。

学会誌編集委員長の東海林幹夫先生から、始めはe-letterから学会誌を開始して行く旨が説明された。

財務委員長の森下竜一先生から、会員増加の促進と会費納入の促進、並びに会計監査の必要性が説明され、監事には松原悦朗先

生が承認された。また賛助会員制度を作り、財務体質強化に乗り出すことになった。

専任事務局の件：事務局長の森下竜一先生から説明があり、主として会員管理と年会費徴収業務を年間 583,102 円で事務局を㈱コネットに委託することが承認された。契約は4年を原則とする。

役員について：現世話人はそのまま全員理事に移行就任し、今後は各理事から3-5名程度評議員の推薦をお願いすることとなった。

【役員名簿】

顧問

森啓 大阪市立大学大学院 医学研究科
老年医科学大講座 脳神経科学教授

理事長

阿部康二 岡山大学大学院 医師薬学総合
研究科 神経内科教授

理事

秋下雅弘 東京大学大学院 医学系研究科
加齢医学教授

池田佳生 群馬大学大学院 医学系研究科
脳神経内科学教授

内山真一郎 国際医療福祉大学 臨床医学
研究センター教授

浦上克哉 鳥取大学医学部保健学科 生体
制御学教授

川畑信也 社会医療法人財団新和会 八千
代病院 神経内科 部長

小室一成 東京大学大学院 医学系研究科
循環器内科学教授

東海林幹夫 弘前大学大学院 医学研究科
脳神経内科学講座教授

寺山靖夫 岩手医科大学 内科学講座 神
経内科・老年科分野教授

冨本秀和 三重大学大学院 医学系研究科
神経病態内科学教授

長田乾 秋田県立脳血管研究センター 神
経内科学研究部部長

羽生春夫 東京医科大学 高齢診療科教授

福井俊哉 医療法人花咲会 かわさき記念
病院院長

堀内正嗣 愛媛大学大学院医学系研究科
分子心血管生物・薬理学教授

松原悦朗 大分大学医学部 神経内科学講
座教授

水野敏樹 京都府立医科大学大学院 医学
研究科 神経内科学教授

光山勝慶 熊本大学大学院 生体機能薬理
学教授

森下竜一 大阪大学大学院 医学系研究科
臨床遺伝子治療学教授

山口修平 島根大学 医学部内科学講座
内科学第三教授

山田正仁 金沢大学大学院 脳老化・神経
病態学（神経内科学）教授

VAS-COG Asia 印象記

国際医療福祉大学臨床医学研究センター・教授
山王病院・山王メディカルセンター
脳血管センター・センター長
内山真一郎



VAS-COG Asia はアジア太平洋脳卒中学会 (APSC 2014) と共同開催で9月12日午後台北の国際会議場で開催されました。APSC 2012 の会長を東京で務めた際に阿部康二教授からのご要望を受けて VAS-COG Asia を共同開催させていただいたのが発端となり、APSC との共同開催は昨年香港で開催された APSC 2013 に続いて今回が3回目となります。この共同開催は大変成功しているように思われます。なぜならば、2012年の参加者はわずか10名にすぎなかったのが、2013年には50名となり、今回は100名以上の参加者で会場が満席になるという具合に、回を重ねるごとに参加者が増えているからです。両学会間では学術プログラムの相互乗り入れのみならず、ソーシャルプログラムの相互乗り入れも活発に行われ、アジア太平洋諸国間の積極的な学術と文化の交流が行われているのが特徴です。今回の学会は参加者の多さもさることながら、内容も病理、病態、疫学、予防、画像、啓発、教育、症例検討とこれまで以上に多岐にわたり、活発な質疑応答が行われ、大変盛り上がりました。認知症と脳卒中は健康寿命を脅かす二大疾患であり、背景に血管性危険因子を共有することが広く認識されるようになり、脳血管障害と認知症の関わりに関心が高まっていることが参加者の増

加につながっているのではないかと思います。しかも、世界人口の6割を占めるアジアでは認知症と脳卒中も爆発的に増加していることから、VAS-COG Asia の果たす役割が今後益々重要になっていくことは間違いありません。世界のトップレベルにある日本の認知症研究者や、この領域に関心のある新進気鋭の医師や研究者が日本から多数参加することは VAS-COG Asia のレベルアップに大きな貢献を果たすことが期待されます。来年は APSC 2015 が10月2~4日にマレーシアのクアラルンプールで開催されますので、VAS-COG Asia は10月2日に開催されることとなります。治安やアクセスがよく、リゾート施設もそろっていることから日本人にも大変に人気のある開催地であり、会場は五つ星ホテルのシャングリラです。APSC 2015 と VAS-COG Asia の共催学会にぜひご参加ください。



VAS-COG Japan 2015 のご紹介

川畑信也 (八千代病院神経内科)

山口修平 (島根大学医学部内科学講座内科学第三)

来たる平成27年(2015年)9月19日(土)に東京ファッションタウンにおいて、第6回日本脳血管・認知症学会 (VAS-COG Japan 2015) を開催させていただきます。今回は VAS-COG World を日本に誘致することに成功し、同時開催とさせていただきます事となりました。国際学会の最終日に平行して開催しますので、是非両方の学会への参加をお願いしたく存じます。国際学会に登録された場合には、国内学会への参加はフリーにしたいと考えています。

近年、アルツハイマー病における血管病理の重要性をしめす報告が増加しています。疫学や危険因子の面からも、アルツハイマー病と血管性認知症には強い共通基盤があることが判明しつつあります。特に脳小血管症はアミロイド血管症を代表として、アルツハイマー病と血管性認知症の分水嶺に位置している病態であります。アミロイド仮説に基づいたアルツハイマー病の根本治療薬の開発が精力的に行われていますが、もう一方の血管病態からのアプローチも重要と考えられます。今回の学会ではアルツハイマー病に対する血管病態からのアプローチをテーマとした企画を考えています。また認知症診断における画像技術の重要性は近年益々増大しており、MRI、SPECT、PET の情報は認知症の早期診断、病態把握、薬剤選択等に大きく貢献しています。本学会では招待講演を含めて、画像診断に関する



るトピックスも取り上げ議論を行いたいと考えています。

さて本学会は 2010 年に研究会として発足し、基礎と臨床の研究者が一同に会して、認知症をターゲットとして熱い議論を行ってきました。平成 26 年度の世話人会におきまして、研究会から学会への発展を図り、呼称を第 6 回より学会とすることが世話人会で合意されました。会員数のアップ、財務体制の強化、学会機関誌の発行など今後クリアすべき課題は多くありますが、まずは学会そのものの活性化が必要で、特に若い研究者にとって魅力的な学会に進化させることが重要です。そのためにも今回の学会が国際学会と同時開催になったことがはずみになればと考えています。

ご参集頂く多くの皆様方の活発なご発表やご討論により、有意義な会となるよう準備を進めていく所存です。多数の皆様方のご参会を心よりお待ちしております。

VAS-COG と認知症研究の展望

大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経科学教授

VAS-COG 顧問 森 啓

2010 年の本セミナーでは、「しのぎをけ
ずる治療薬開発競争」と題して新薬開発
の紹介をさせていただきました。その後、ほと
んどの治療薬開発が失敗し、アルツハイマ
ー病の新薬開発は、リスクの高い事業とし
て敬遠されるようになりました。そのよう
な中で、中等度から高度の症状では全く効
かなかったソラネツマブという免疫抗体を
使った Expedition が、軽度の患者での有効
性がある、と発表されました。

この結果から、これまで治療介入時期が
遅すぎた可能性が議論され、今後の治療薬
の臨床試験は早期から初期段階にある患者
に、場合によっては発症前あるいは前駆状
態のヒトを被験者にする流れになりました。

新しい治験としての Expedition の早期投
与が現在検討中ではありますが、これ以外の
治験として、同じ抗体を使用した「A4 治験」
がアミロイド PET 陽性の 70 歳以上の未発症
者への予防介入が準備中のようです。ソラ
ネツマブ以外の治療薬候補として、オリゴ
マーβを認識するクレネツマブ、前線維状
アミロイド抗体である BAN2401 やガンテネ
ルなどの抗体も治験薬として挑戦されよう
としています。クレネツマブは南米コロン
ビアでの同一変異をもつ大家系を対象とし
た「API 治験」に使用される抗体です。ソラ
ネツマブやガンテネルは、家族性アルツハ

イマー病を対象とする「DIAN-TTU (優性遺
伝性アルツハイマー病治験)」で使用される
予定です。とくに、DIAN-TTU は投与時期を
特定できる点で、高精度の治験となること
が期待されています。さらにアポリポタン
パク質 E アレル $\epsilon 4/\epsilon 4$ のホモ体を対象と
した「バナー治験」も検討が具体的に進ん
でいるとのことでした。

これらの臨床研究は、いずれも程度の差
こそあれ、新しい病因論に基づく新薬剤が
選択されていることは強調するに値する。
このなかにあつて、家族性アルツハイマー
病は、変異を持つ場合は 100%発症する(浸
透率と言います)ことから、一年一年が大
切な時間となりますので、できるだけ迅速
な対処が望まれます。2013 年 6 月に厚生労
働省から、最新の臨床試験として日本版と
もいふべき DIAN-Japan 研究の計画が発表さ
れました。今後、我が国でも、欧米と同じ
最新の臨床研究が進行することが期待され
ています。血管性認知症の治験では、生活
習慣病との観点から、糖尿病、高血圧、脂
質異常症制御の保険薬効果が重要な挑戦と
なることが考えられる。ただ、これらの保
険薬の多くは、後発品に取って代わってい
る傾向があり、臨床研究推進資金の課題に
ついての議論も必要となると予想される。

日本脳血管・認知症学会(VAS-COG JAPAN)会則

(1) 名称

本会は「日本脳血管と認知症学会 (VAS-COG JAPAN)」と称する。

(2) 目的

本会は日本における血管性病変と認知症との関連について幅広い視野から臨床的基礎的研究を行い、併せて国際的な当該分野研究者との情報交流を通じて、認知症の原因や病態における血管性病変の関与を明らかにすることで創薬の可能性も探り、認知症研究の新しい分野の発展に資するために設立された。

(3) 構成

本会は複数名の理事および評議員によって運営され、代表理事長と事務局を置く。

代表理事は理事の互選で選任され、任期は2期4年とする。

(4) 事業

本会は年1回学術集会を開催する。学術集会は参加者の参加費で運営されるが、共催も可能である。

(5) 会費・会費

本会は、本会の趣旨に賛同する会員で構成され、年会費2,000円は2015年3月31日までとし、同年4月1日以降は5,000円とする。本会の会計年度は毎年4月1日から、翌年3月31日とする。

(6) 発足期日

本会は2014年8月23日に発足し、本会側も同時に施行された。

編集後記

弘前大学神経内科
東海林幹夫



VAS-COG JAPAN News and Letter の第 1 号をお届けします。2010 年に開始された日本血管性認知障害研究会は毎年参加者が増加し発展してきましたが、新たに日本脳血管・認知症学会として発足しました。本号ではこの間の経緯と今後の展望、予定などを掲載しました。Common disease として増加している認知症を血管性因の基礎と臨床の

両面から解明し、国際的な規模でこの分野の発展を目指しています。本 News and Letter が機関誌として、本学会の発展に貢献することを期待しております。編集者として、この様な発展のお手伝いができることを大変光栄に存じております。学会会員皆様のご協力をどうぞお願い申し上げます。

Editors Note

Hirosaki University Mikio Shoji MD., PhD.,

Here, we bring you the first issue of VAS-COG JAPAN News and Letter. This society for scientific study of vascular factor of dementia started at 2010, developing with growing participants. At 4th VAS-COG in 2014, we decided to establish this association as official academic society," VAS-COG JAPAN". In this issue, background, aim, landscape, schedule, byelaw, and board members are

presented. We aimed basic and clinical study of growing dementia as common disease from the aspect of vascular factors to contribute internal development of this field. We are hoping for contribution of this News and Letter as the official journal of VAS-COG JAPAN. I am very honored to edit this journal. I would like to sincere help by all association members.